

I 实践

1 研究主題

生徒の人権感覚や人権意識を育成するための教育活動の充実と人権教育の推進計画の工夫・改善

(1) 主題設定の理由

人権の基本にあるのは、一人一人の人間の尊厳である。そのため、「茨城県人権施策推進基本計画」に基づき、「教育活動全体を通して人権尊重の精神を養うとともに、差別や偏見をもたない児童生徒の育成」を目指している。そのための課題の一つが、「人権問題の理解については知識理解を中心とした学習であったことから児童生徒に人権感覚が十分身についていないこと」である。そこで、教科や領域での教育活動全体で体験的な活動や話し合い活動を通して理解を深めることができれば、一人一人の人権に対する意識を高めることができると考えた。

(2) 研究のねらい

各教科、道徳、特別活動等の学校生活全体を通して、人権教育の充実を図り、人権尊重の精神の育成を目指す。

2 実践内容

(1) 道徳の時間における「人権問題」に関する授業 (第3学年)

ア 道徳資料「友達関係って…」を読んで話し合う。

イ 話し合いを通して、「人権」について考えたことをまとめる。

[illegible][illegible]

(2) 学級活動における「人権」に関する授業 (第2学年)

ア 学習資料「尊厳死」，「それでも命は誕生する」を読んで話し合う。

イ 話し合いを通して、「人権」について考えたことをまとめる。

【資料 尊厳死】 【資料 それでも命は誕生する】

2年 3歳 藤 氏 名

アメリカ、ニュージャージー州、1975年、2歳になるカレン・アング・インクンは、母親とともに亡くなった姉、センターレイブをスーパーしてきてきた大トリートナーと正真正正、顔面を撃った。カレンは怪我状態のまま病院に運ばれた。12月4日深夜のことだった。

最初の10日間は昏睡状態だった。しかし、12月14日には、脳筋は平坦となく、自発呼吸も止まらず、すべての脳筋は正常状態を示していた。

姉の死より数週間前に殺害されたことがなかった母親が他人としてその権利を持っているなら、死の権利の持っているはずだ。人間として生きることができないなら、せめて人間として死ななくてはならない。以上、私は、私の娘の死を認めた。見なければならぬ。どうか死ななくてはいけない。でも、死ななければならぬ。死かせてあげたいのです」と裁判官に訴えた。しかし、命を殺すことが裁判官の責であるから、これを断ることはできなかった。「私は今に娘さんの命を救う資格があります。しかし、いかなる場合にも、命を奪う権利はないのです。お前たちはよく分かりますが、そのことだけは私にはできません」。

このようにして、借金返済（1人呼吸器）はその後カレンを生かしながら、死なずに済んだ。

[illegible]

資料名		年代 氏名	
青蔵記		二 年 三組 氏名	
一	宿心(症者)だつた(脳死)患者です。	一	宿心(症者)だつた(脳死)患者です。
二	宿心(症者)の発見(聞い)く、たゞは速りにする。宿心(症者)の速に考へる。	二	宿心(症者)の発見(聞い)く、たゞは速りにする。宿心(症者)の速に考へる。
三	宿心(症者)は、宿心(症者)の発見(聞い)く、たゞは速りにする。宿心(症者)の速に考へる。	三	宿心(症者)は、宿心(症者)の発見(聞い)く、たゞは速りにする。宿心(症者)の速に考へる。
四	宿心(症者)は、宿心(症者)の発見(聞い)く、たゞは速りにする。宿心(症者)の速に考へる。	四	宿心(症者)は、宿心(症者)の発見(聞い)く、たゞは速りにする。宿心(症者)の速に考へる。
五	宿心(症者)は、宿心(症者)の発見(聞い)く、たゞは速りにする。宿心(症者)の速に考へる。	五	宿心(症者)は、宿心(症者)の発見(聞い)く、たゞは速りにする。宿心(症者)の速に考へる。
六	宿心(症者)は、宿心(症者)の発見(聞い)く、たゞは速りにする。宿心(症者)の速に考へる。	六	宿心(症者)は、宿心(症者)の発見(聞い)く、たゞは速りにする。宿心(症者)の速に考へる。
七	宿心(症者)は、宿心(症者)の発見(聞い)く、たゞは速りにする。宿心(症者)の速に考へる。	七	宿心(症者)は、宿心(症者)の発見(聞い)く、たゞは速りにする。宿心(症者)の速に考へる。
八	宿心(症者)は、宿心(症者)の発見(聞い)く、たゞは速りにする。宿心(症者)の速に考へる。	八	宿心(症者)は、宿心(症者)の発見(聞い)く、たゞは速りにする。宿心(症者)の速に考へる。
九	宿心(症者)は、宿心(症者)の発見(聞い)く、たゞは速りにする。宿心(症者)の速に考へる。	九	宿心(症者)は、宿心(症者)の発見(聞い)く、たゞは速りにする。宿心(症者)の速に考へる。
十	宿心(症者)は、宿心(症者)の発見(聞い)く、たゞは速りにする。宿心(症者)の速に考へる。	十	宿心(症者)は、宿心(症者)の発見(聞い)く、たゞは速りにする。宿心(症者)の速に考へる。

(3) 社会科における「人権」に関する授業

ア 歴史…「さまざまな身分とくらし」(第1学年)、「日本の中国侵略」「第二次世界大戦」(第2学年)などにおいて、人権について学習をする。

イ 公民…「人権と共生社会」(第3学年)において、基本的人権について学習をする。

(4) 学校行事での取り組み

ア 体験活動(各学年)

心ゆたかな体験学習(第1学年)、職場体験学習(第2学年)、修学旅行(第3学年)の、人と人、人と環境との関わり合いを重視した体験学習を通して、自他の良さを発見しながら、差別や偏見のない心、環境を大切にする心をもつゆたかな人間性を培い、自分の生き方を探る。



【心ゆたかな体験学習】



【職場体験学習】



【修学旅行】

イ リサイクル活動・海岸清掃・ケータイ安全教室(全学年)

集団の一員として役割を果たしたり、自覚をもって行動したりすることができる。



【リサイクル活動】



【海岸清掃】



【ケータイ安全教室】

3 成果

- ・道徳や学級活動の時間では、学年や学級の実態に応じて、新聞記事やニュース等から教材を見つけ、授業を展開する工夫した取り組みも見られた。生命の大切さや個性の尊重などについて考えたり話し合ったりすることを通して、人権の基盤である自他の生命を大切にするという認識を再確認できるように努めた。
- ・社会科の学習では、歴史や公民の授業の中で、人種や民族、性別による差別や人権について考える時間を設けることで、生徒一人一人の人権に対する意識を高めるように努めた。
- ・各学年で行われている体験活動の中で、生徒が自主的に企画・準備・運営を行う場を作ったことで、お互いの個性を認め、協力し、友情を深めようとする態度が身についてきた。
- ・リサイクル活動や海岸清掃では、保護者や地域の方々から温かい励ましの言葉をかけてもらい、活動後の達成感や充実感を得た生徒が多かった。
- ・ケータイ安全教室では、メールや掲示板での具体的な人権侵害の例を挙げ、問題点について考えた。生徒にとって身近な道具であるだけに、使い方のマナーや携帯電話の裏に潜む危険性などの話を熱心に聞いていた。

II 今後の課題

各教科や道徳、総合的な学習の時間・学校行事など教育活動全体の中で、人権に対しての取り組みをさらに充実させ、生徒一人一人の人権感覚や人権意識を高めていきたい。また、校内研修の充実を図り、教職員の人権に対する知識や理解を高めていくことが大切である。さらに、人権コーナーを設置し、意図的・計画的な実践が図れるようにしていきたい。